

宗永寺裏東塚古墳、西塚古墳(藤岡市)

ここが宗永寺/山門(薬医門)



本堂/「七興山宗永寺」と記された扁額が見える



本堂左手にある覆屋/宗永寺裏東塚古墳から出土した石棺が置かれている



手前に立つ説明が記された石碑



石棺の形は、長方形で、蓋は平らな形をしており、その中央に浅い凹みがある。蓋の縁には、透かし彫りの装飾が施されている。石棺の内部には、土葬された遺体が発見された。この石棺は、古墳時代の前期に造られたと推定されている。その造り手は、当時の有力者であったと考えられる。石棺の周囲には、土製の埴輪が埋め込まれている。これは、古墳の土壌を侵食から守る役割を果たしていたと考えられている。また、石棺の蓋には、透かし彫りの装飾が施されている。これは、当時の彫刻技術の発展を示している。石棺の内部には、土葬された遺体が発見された。この石棺は、古墳時代の前期に造られたと推定されている。その造り手は、当時の有力者であったと考えられる。

小林敬夫

凝灰岩製の舟形石棺で6世紀前半頃のものとされる

石棺の身部は凝灰石を削り抜いて作られた舟形
 幅一丈六寸、長さ二丈五寸、高さ六寸、蓋も凝灰岩製で、突起も付いて深
 九寸、幅一丈六寸、長さ二丈五寸、高さ六寸、蓋も凝灰岩製で、突起も付いて深
 形欠け掛突起が二個ずつあり、蓋も凝灰岩製で、突起も付いて深
 が欠け掛突起が二個ずつあり、蓋も凝灰岩製で、突起も付いて深
 いくつあり、蓋も凝灰岩製で、突起も付いて深
 三つあり、蓋も凝灰岩製で、突起も付いて深
 ったが、蓋も凝灰岩製で、突起も付いて深
 方後円墳に存在した
 もの年代は6世紀前半頃とみられ、このよ
 うな舟形石棺は6世紀前半頃とみられ、このよ
 うな舟形石棺は6世紀前半頃とみられ、このよ
 なく、5世紀後半頃のものとされる
 文責 群馬県埋蔵文化財調査センター 小林敬夫
 石棺棟寄附者 多胡雪路 多胡勇

繩掛突起が記されている





石棺蓋は粉々にになっている

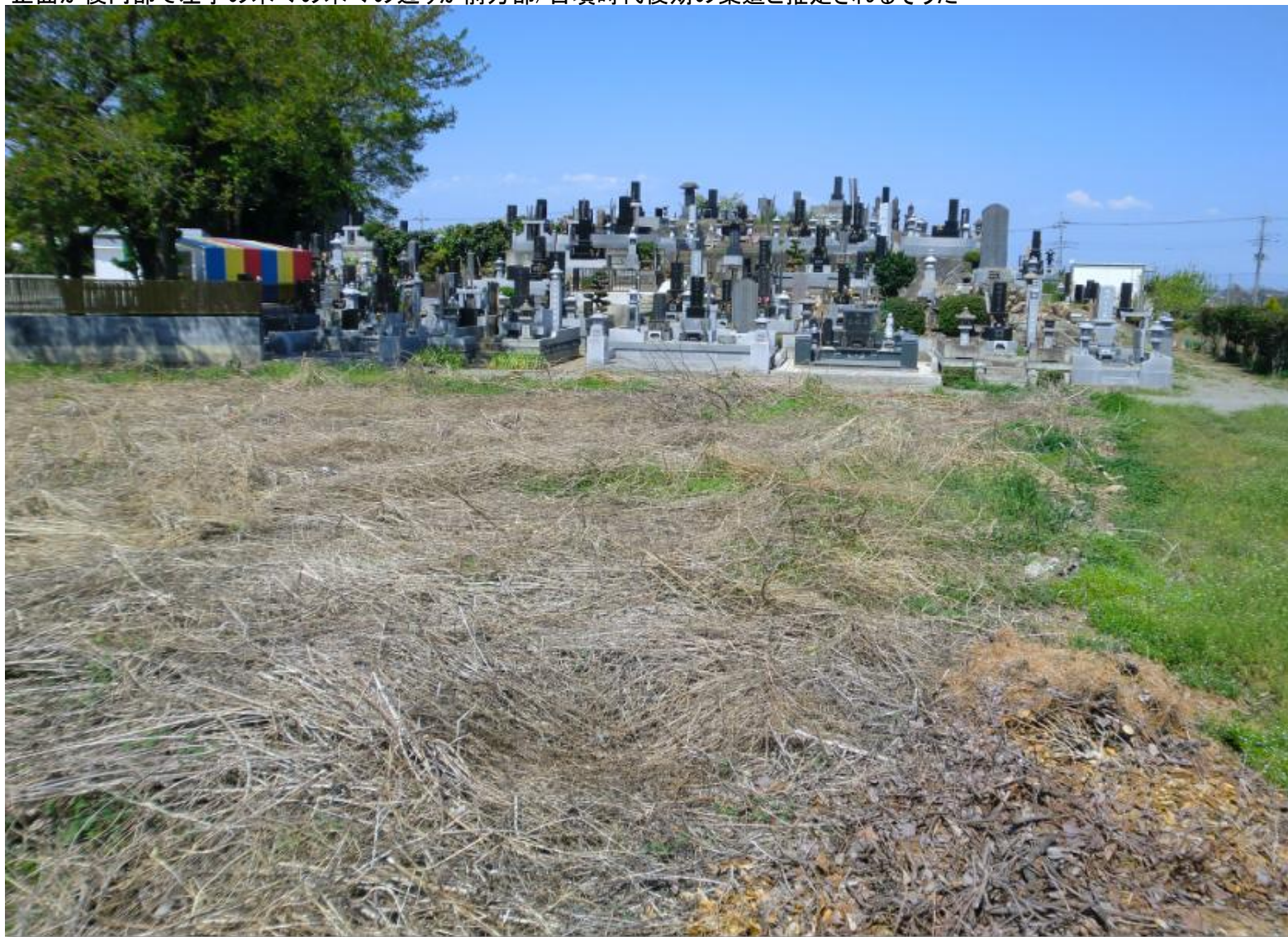




側面の縄掛突起が見てとれる



さて、前方が本堂裏東側にある宗永寺裏東塚古墳(美土里6号墳とも呼ばれる)/墓地と化している/前方後円墳/南側から見たところ/
正面が後円部で左手の木々の木々の辺りが前方部/古墳時代後期の築造と推定されるそうだ



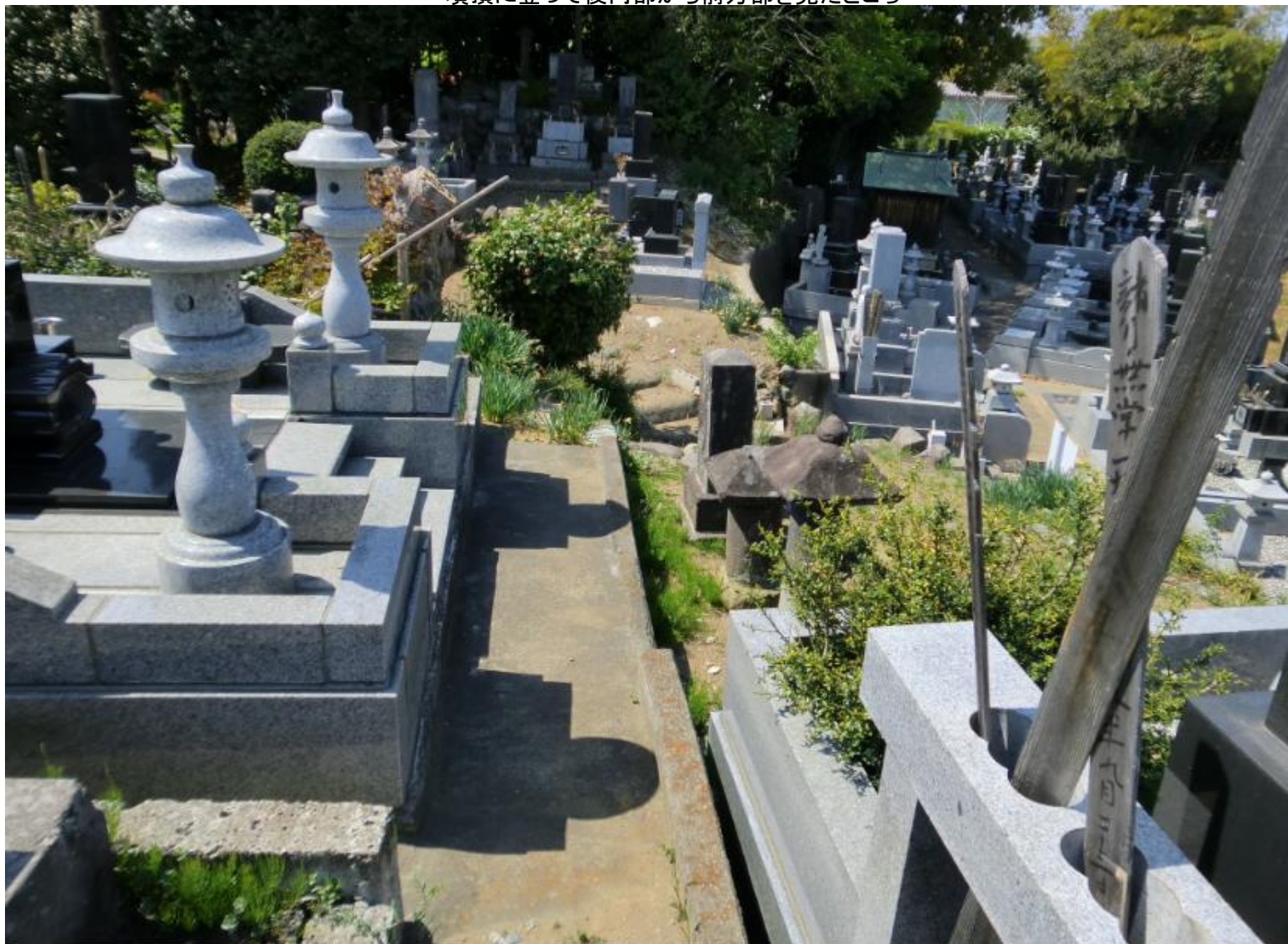
北東側から見たところ/正面が後円部で右手の木々の辺りが前方部



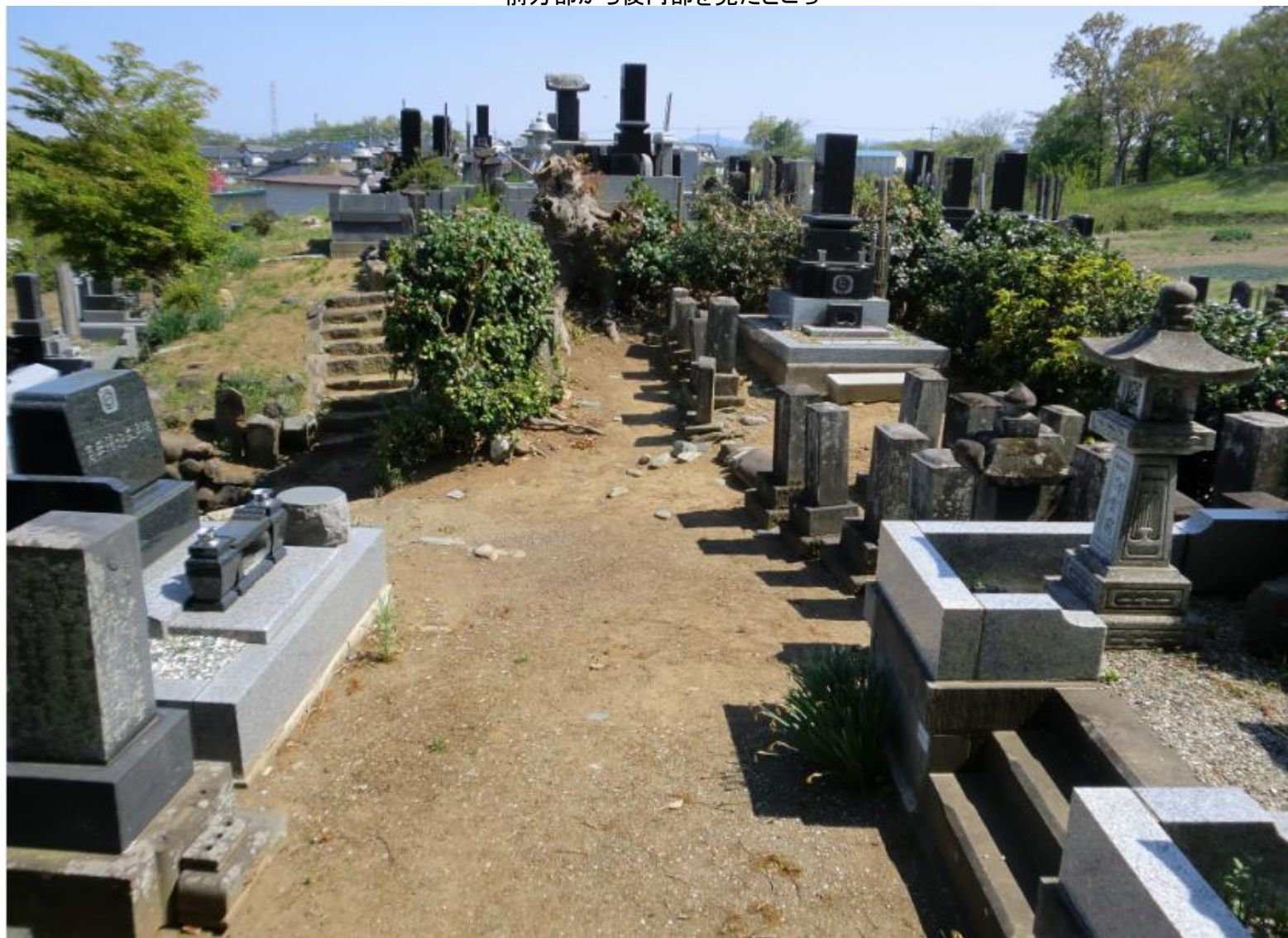
後円部から前方部へかけての墳丘側面を見る



墳頂に登って後円部から前方部を見たところ



前方部から後円部を見たところ



この辺りはくびれ部になるかも



さて、正面は本堂裏の西側にある宗永寺裏西塚古墳(美土里4号墳とも呼ばれる)/前方後円墳/後円部から前方部にかけて側面を見たところ/古墳時代中期から後期までの間の築造と推定されるそうだ



東側から後円部を見る



北側の墳丘側面を後円部から前方部にかけて見たところ



南側の墳丘側面を後円部から前方部にかけて見たところ



墳頂に登って後円部から前方部を見たところ/こちらも墓地となっている



前方部から西方向を見下ろしたところ



前方部から後円部を見たところ



右手の墳丘法面を見下ろす



さて、これは伊勢塚古墳から南方向を見たところで、前方から右手が七興山古墳、左手の木立の辺りがこの宗永寺である



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/huzioka_soehigasi/

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/huzioka_soeginisi/

<http://de101705.btblog.jp/cl/0/2/2009/9/0/>

<http://go29.bov.jp/kofun/kanto/?p=1418>

<http://obito1.web.fc2.com/fuziokanisi.html>

<http://blog.goo.ne.jp/ttmida/e/f72765ed8ce3e2e9481a7d84b812cf99>

<http://blogs.yahoo.co.jp/npcsk058/22392550.html>

